

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第12集

東・太田遺跡

1985

福岡県教育委員会

序

「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告」第12集「東・太田遺跡」が刊行の運びとなりました。今回の報告は1983年度に調査を実施しました糸島郡前原町東所在太田遺跡の埋蔵文化財の調査記録であります。

古墳時代の住居跡と平安時代の堀立柱建物群の報告であります。本書が文化財の保護と活用にわずかでも役立てれば幸甚に存じます。

調査に御協力いただいた地元の方々、建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所の方々をはじめ多くの皆さまに心からお礼申し上げます。

昭和60年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 友野 隆

例 言

1. この報告は1983年度に福岡県教育委員会が建設省九州地方建設局の委託を受けて実施した一般国道202号線今宿バイパス建設予定地に係る埋蔵文化財の調査記録である。
2. 本報告の執筆分担は下記のとおりである。
I-1橋口 達也
II-1・2・3-1)・2)橋口 達也
3-3)佐々木隆彦
3. 遺構・遺物の実測は橋口・佐々木が、整図は橋口と豊福弥生が行なった。遺物撮影は平島美代子が行なった。
4. 遺物の整理・復原は岩瀬正信の指導の下に九州歴史資料館で行なった。
5. 本書の編集は橋口が行なった。

本文目次

	頁
I. はじめに.....	1
1. はじめに.....	1
2. 調査の経過.....	4
3. 位置と環境.....	6
II. 発掘調査の記録.....	6
1. はじめに.....	6
2. 調査の記録.....	6
1) A地点出土の遺物.....	6
2) C地点の調査.....	8
3) D地点の調査.....	14

挿図目次

	頁
第1図 太田遺跡位置図(縮尺1/25,000).....	5
第2図 太田遺跡付近地形図(縮尺1/1,000).....	7
第3図 A地点出土の石器(縮尺1/2).....	8
第4図 C地点遺構配置図(縮尺1/200).....	9
第5図 1号掘立柱建物(縮尺1/60).....	10
第6図 2号掘立柱建物(縮尺1/60).....	11
第7図 3号掘立柱建物(縮尺1/60).....	13
第8図 1号土壘(縮尺1/40).....	14
第9図 C地点出土の上鉢器(縮尺1/3).....	14
第10図 D地点遺構配置図(縮尺1/200).....	15
第11図 D地点竪穴住居跡実測図(縮尺1/60).....	16
第12図 竪穴住居跡出土土器実測図(縮尺1/3).....	19
第13図 竪穴住居跡出土土器実測図(縮尺1/2).....	20
第14図 D地点土壘実測図(縮尺1/20).....	21
第15図 D地点溝状遺構(縮尺1/60).....	22

I はじめに

1. はじめに

建設省九州地方建設局から福岡県教育委員会が委託を受けた一般国道202号線今宿バイパス関係の埋蔵文化財の発掘調査の進行状況は、第2表に示すとおりである。これらの発掘調査の結果は現在まで「今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書」として第1集～第10集が刊行され

第1表 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	副題	収録した遺跡	報告者	備考
第1集	福岡市大字拾六町所在の遺跡群	溝納遺跡 宮の前遺跡・上地点 高崎古墳群 大又遺跡	浜田 信也 酒井 仁夫 浜田 訓島 訓島 邦弘	1969年調査 1970年報告
第2集	福岡市大字徳永・鹿氏所在の遺跡	石八幡古墳 飯氏馬場遺跡 鹿氏飯原遺跡	柳田 廉雄, 浜田, 訓島 永井 昌文 柳田, 訓島, 浜田	1970・71年調査 1971年報告
第3集	福岡市西区大字拾六町所在の遺跡	高崎古墳群 大又遺跡	栗原 和彦 上野 精志	1971年調査 1973年報告
第4集	福岡市西区大字拾六町所在の溝納遺跡の調査	溝納遺跡	青峰 英範, 松本 昂 林 弘也, 山本 輝雄 栗原, 上野, 馬田 弘徳	1971・72年調査 1976年報告
第5集	福岡市西区・糸島郡前原町所在の遺跡の調査	溝納遺跡 今宿大塚南遺跡 今宿高田遺跡 今宿小塚遺跡 糸島平野桑里及び古野遺跡 上御子遺跡	沢村 仁 松本, 林 細川 隆美 粉川 昭平 弓場 紀知 栗原, 柳田 上野, 馬田	1971・72・73年 調査 1977年報告
第6集	糸島郡前原町大字波多江所在「波多江遺跡」	波多江遺跡	松本, 林, 大澤正巳 丸山 隆成, 橋口 達也 高橋 章, 馬田	1978年調査 1982年報告
第7集	糸島郡二丈町深江・大入地区所在の遺跡の調査	塚田遺跡 鍋橋石八幡宮裏古墳 赤岸遺跡	大澤, 橋口, 中間 橋口 達也 中間 研志	1979年調査 1982年報告
第8集	石崎・曲り田遺跡Ⅰ	曲り田遺跡	橋口 達也, 中間 研志 上原 三, 長 誓二	1980・81年調査 1983年報告
第9集	石崎・曲り田遺跡Ⅱ	曲り田遺跡	佐々木 稔, 大澤正巳 栗村 武信, 栗科 行男 船越 公成 橋口 達也, 中間 研志	1980・81年調査 1984年報告
第10集	今宿高田遺跡	今宿高田遺跡	大澤正巳, 橋口 達也 佐々木 隆彦	1982年調査 1984年報告
第11集	石崎曲り田遺跡Ⅲ	曲り田遺跡	橋口 達也, 中間 研志 佐々木 稔, 村田 朋美, 伊藤 薫	1980・81年調査 1985年報告
第12集	東・太田遺跡	太田遺跡	橋口 達也 佐々木 隆彦	1983年調査 1985年報告

第2表 今宿バイパス関係埋蔵文化財発掘調査の実績及び予定一覧

地点 番号	遺跡名	所在地	調査所要区画			既調査面積				
			長さ	幅	面積	44年度	45年度	46年度	47年度	48年度
1	遺物散布地	福岡市西区大字拾六町	34	28	520	45				
2	"	"	52	50	2,600	63				
3	湯納遺跡	"	280	40	11,200	168		1,200	4,612	
3	"	"	30	20	600					450
4	宮の前遺跡	"	110	40	4,400	400				
5	高崎1・2号墳	"	36	15	540	160				
6	大又遺跡	"	57	20	1,140	300		900		
6	高崎3・4・5号墳	"	40	15	600	200		249		
7	須志器散布地	"	55	20	1,100	27				
8	弥生散布地	"	33	39	1,287					
9	若八幡古墳	福岡市西区徳永	50	40	2,000		1,100			
10	馬場遺跡	福岡市西区飯氏	70	70	4,900		290			
11	鏡原遺跡	"	70	50	3,500		550			
12	糸里遺跡	福岡市西区大字飯氏 糸島郡前原町鏡原	3,000	40	120,000			136		
13	古野遺跡	糸島郡前原町大字有田・篠原	150	40	6,000			482		
14	上鎌子遺跡	糸島郡前原町大字有田	70	30	2,100			304	630	
15	遺物散布地	"	300	30	9,000					
16	古墳2基	糸島郡前原町	30	30	900					
17	遺物散布地	"	100	30	3,000					
18	"	"	40	30	1,200					
19	今宿高田遺跡	福岡市西区大字今宿高田	50	40	2,000					
19'	今宿大塚南遺跡	福岡市西区大字今宿	100	40	4,000					650
20	今宿小塚遺跡	福岡市西区大字今宿女原	30	40	1,200					500
21	遺物散布地	糸島郡前原町	250	20	5,000					
22	"	"	50	40	2,000					
23	"	"	100	20	2,000					
24	"	"	230	20	4,600					
25	"	"	150	20	3,000					
26	"	"	200	20	4,000					
27	太田遺跡	糸島郡前原町東	300	30	9,000					
28	石崎曲り田遺跡	糸島郡二丈町大字石崎字向り田	200	30	6,000					
29	遺物散布地	糸島郡二丈町大字上深江	100	40	4,000					
30	"	糸島郡二丈町大字深江	100	40	4,000					
31	"	"	100	30	3,000					
(32)	鏡原石 八幡宮裏古墳	"								
(33)		糸島郡二丈町大入								
(34)	赤岸遺跡	"								

既 調 査 面 積								計	残調査 千定面積	備 考
53年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度				
							45	0	調査不要	
							63	0	〃	
							5,980	0	発掘調査終了・報告書既刊	
							450	0	〃	
							400	0	報告書既刊	
							160	0	発掘調査終了・報告書既刊	
							1,200	0	〃	
							449	0	〃	
							27	0	調査不要	
							0	0	消 滅	
							1,100	0	保存確定・報告書既刊	
							290	2,000	一部調査終了・報告書既刊	
							550	2,000	〃	
3,360							3,496	0	調査終了・報告書既刊	
							482	0	〃	
							934	0	〃	
								4,500		
								0	路線変更のため調査不要	
								0	〃	
								1,000	旧道1	
				2,000			2,000	0	旧道2・58年度報告	
							650	0	旧道2・調査終了・報告書既刊	
							500	0	旧道3 〃	
								1,000		
								400		
								400		
								900		
								600		
								800		
					2,700		2,700	0	58年度調査・59年度報告	
		2,000					2,000	0	調査終了・57～58年度一部報告 59年度一部報告	
		100					100	0	遺構なし	
	3,000						3,000	0	調査終了・56年度報告	
								0	調査不要	
	100						100	0	調査終了・56年度報告 (二丈浜玉道路)	
	30						30	0	調査終了・遺構なし (二丈浜玉道路)	
	224						350	0	56年度報告 (二丈浜玉道路)	

ている(第1表)。

今回第12集として報告を行なうのは、第27地点糸島郡前原町東所在「太田遺跡」の調査である。

2. 調査の経過

1983年度に建設省九州地方建設局から福岡県教育委員会が委託を受けた発掘調査地点は、糸島郡前原町東所在の遺物散布地としてあげられていた第27地点であった。

発掘調査は、1983年4月25日～5月25日の間に行なった。発掘地点は大字東字スズ町、字若宮、字太田等があったが、太田をとって「太田遺跡」とした。

発掘区は、第2図に示すとおりに東側からA～Dの4地点に分け、低地部分にはトレンチを設け、台地部分は表土を全面除去して調査を行なった。B地点には、終戦後まで操業していたという瓦工場の跡が検出された。この地点は、瓦工場によって削平を受けており遺構は存在しなかった。A地点もかなりの削平を受けて遺構は存在しなかったが、縄文時代の石斧等が発見され、付近に縄文後・晩期頃の遺構の存在を推定できた。低地の水田部にも遺構は検出されなかった。C地点では掘立柱建物3棟分が検出された。D地点では、台地の縁に削平を受けて壁のなくなった竪穴住居跡1棟と溝・上墳等が検出された。D地点の低地水田部分は俗に馬糞層とよばれる土質からなり、遺構は存在しなかった。

調査関係者は下記のとおりである。

総括	福岡県教育委員会	教育長	友野 隆
	"	文化課長	藤井 功(前)
	"	"	前田 栄一(現)
庶務会計	"	文化課主任主事	川村喜一郎
調査担当	"	文化課技術主査	橋口 達也
	"	文化課主任技師	佐々木隆彦

なお調査に際しては建設省福岡「本」事務所、前原町社会教育課、前原町東地区の西原茂政町議、波多江光司区長をはじめ地元の皆さまに種々の御協力をいただき調査が順調に進行したことに対して深い感謝の念を表したい。

又、遺物整理、図面整理、浄書等に荻原鈴美・大田育子・原カヨ子の諸姉には多くの協力を受けた。記して感謝する。



第1図 太田遺跡位置図 (縮尺1/25,000)

1. 太田遺跡
2. 釜塚遺跡
3. 銚子塚古墳
4. 曲り出遺跡
5. 二塚古墳
6. 東二塚古墳
7. 横枕古墳
8. 日明11号墳
9. 日明3号墳

3. 位置と環境

遺跡の所在する東地区は長野川流域の形成する沖積平野のほぼ中央部に位置し、周囲の水田との比高差4～5m程の低台地をなしている。今回発掘を行なった地点は既に削平を受けて遺構の残存状態は悪かったが、周辺ではいまままでに土器又は石棺等の出土があった事などを地元各氏から聞いた。古墳時代になると長野川流域には、7基の前方後円墳と国指定史跡釜塚古墳等が知られている。最近当遺跡より南方約1.8kmの地点で夜白式土器の出土があったということであり、西隣りの二丈町石崎付近と同様弥生時代早期以来、この地域が弥生時代～古墳時代に一つのまとまりを形成したことは明らかである。又、下流域は加布里の浜に面し、当時の海岸との窓口の一つとしても重要な位置を占めたことは狭い地域でありながら7基の前方後円墳が存在することから想像に難くない。

II 発掘調査の記録

1. はじめに

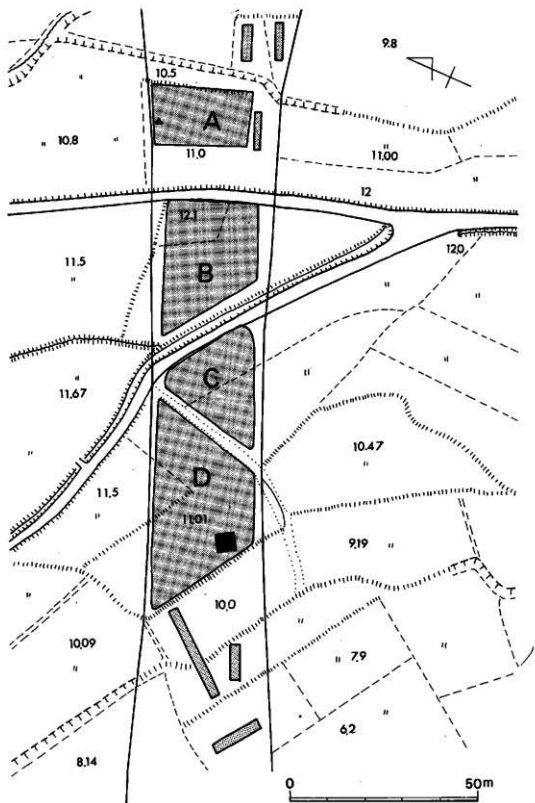
先にのべたように発掘地点はかなりの削平を受けており、遺構の残存状態は悪かった。A・B地点においては遺構は検出されなかったが、第3図に示した縄文時代後・晩期のもと思われる石斧等が出土し、付近にこの時期の遺構の存在を推定できた。C地点では、平安時代の掘立柱建物3棟分、D地点では、古墳時代の竪穴住居跡1棟分等が検出された。以下順を追って説明を加えよう。

2. 調査の記録

1) A地点出土の遺物(第3図)

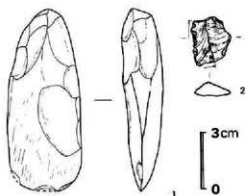
小形の石斧と黒曜石製の剥片を使用した石器が出土している。

1は玄武岩製で長さ9.6cm、幅3.8cm、厚さ2.1cmを測る。全体に風化がいちじるしいが小形の磨製石斧と考えられる。刃部付近には長軸に対してやや斜方向の使用による擦痕が認められる



第2圖 太田遺跡付近地形圖(縮尺1/1000)

- ▲ 石斧出土地点
- 住居跡



第3図 A地点出土の石器(縮尺1/2)



A地点出土石器

が、上部には擦痕はみられない。

2は黒曜石製で長さ26mm、幅20mm、厚さ7mmを測る。長軸の片側と短軸の片側を表裏面から刃部調整を行なっている。

これらの石器はおそらく縄文後・晩期に属するものと考えられる。

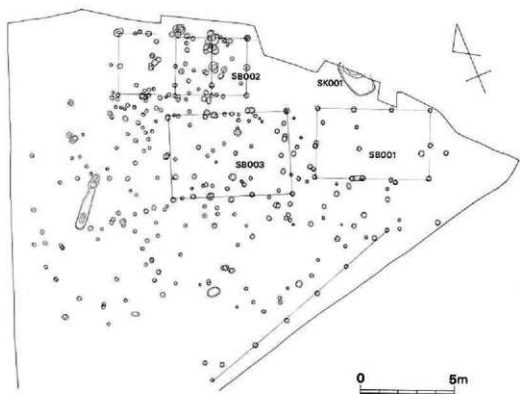
2) C地点の調査

C地点では第4図に示したように掘立柱建物3棟分と土壌1、櫛列らしきものおよび柱穴群が検出された。

第1号掘立柱建物(第5図) 主軸をN-67-W、ほぼ東西にとる2間×3間の建物である。柱間寸法は柱穴の中心で測った数値を図面に示した。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが、梁行の柱間は6尺を基準としたものと推定できる。柱根の跡が残るものから柱根の径は15cm弱のものとした。

第2号掘立柱建物(第6図) 主軸をN-66-W、ほぼ東西にとる2間×2間の総柱の建物である。さらに西側に2間分柱穴のならばものがあるが、梁行・桁行ともに柱間寸法があわないので別の建物と考えられる。柱間寸法は柱穴の中心で測ったものを示している。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが、梁行の柱間は5尺、桁行の柱間は8尺を基準としたものと推定できよう。

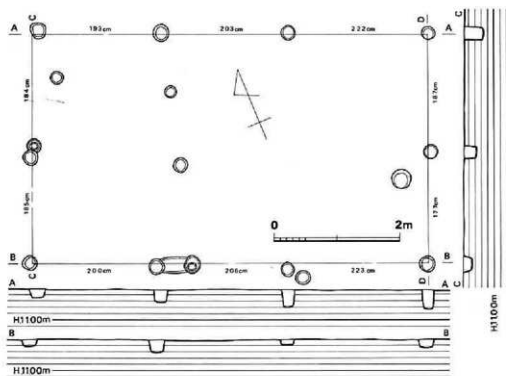
第3号掘立柱建物(第7図) 主軸をN-72-W、ほぼ東西にとる2間×3間の建物である。梁行の中央の柱は東西ともにややみ出しており棟持柱であることがわかる。柱間寸法は柱穴の中心で測った数値を示した。梁行・桁行ともに若干の出入はあるが、梁行の柱間は7.5尺、桁行の柱間は7尺を基準としたものと推定できる。柱根の痕跡が残るものから、柱根の径は約15cm



第4図 C地点遺構配置図(縮尺1/200)



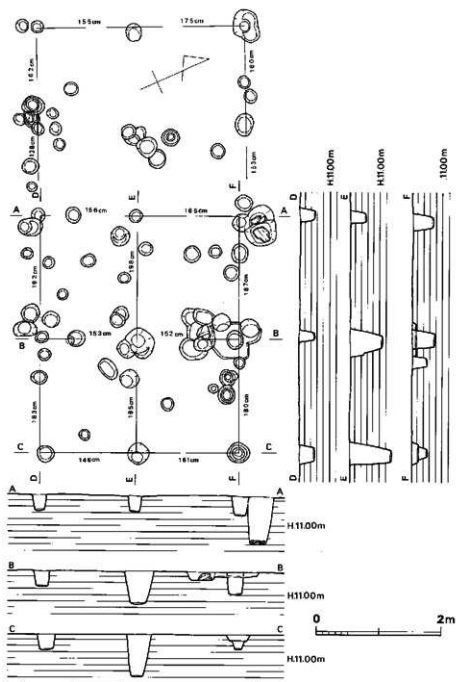
C地点全景(西側から)



第5図 1号掘立柱建物(縮尺1/60)



1号掘立柱建物(東側から)



第 6 图 2 号架立柱建筑物 (缩尺 1/60)



2・3号掘立柱建物（西側から）

と判断できた。

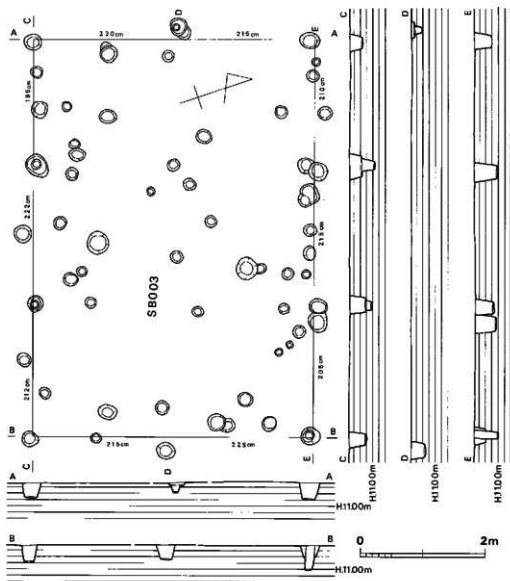
第1号土壇（第8図） 約220cm×130cm程の隅丸長方形の土壇で、中央部にはさらに長円形の深さ50cm程の掘込みがある。遺物は平安時代の土師器小皿・坏・青・白磁、石鍋等の少片が出土しており、掘立柱建物群に伴う施設と考えられる。

出土遺物（第9図）

越州窯青磁をはじめとする青・白磁、黒色土器、土師器坏・皿、石鍋等の小片が、点数は多く出土しているがほとんどは図示するにたえない。時代的には平安時代前期～平安時代末頃までのもので、平安末期のものが最も多い。第1号土壇、D地点の溝・土壇出土遺物、表層出土遺物も同様である。したがって掘立柱建物は平安時代末頃のものと考えてよからう。

いま時期を判断する資料として最適と考える土師器を図示して説明したい。

1は復原口径96mm、高さ13mm、復原底径84mm。底部は糸切り離しで、内外ともにヨコナデを施す。黄褐色を呈し、胎土には細粒の砂を少量含み、焼成は良好。

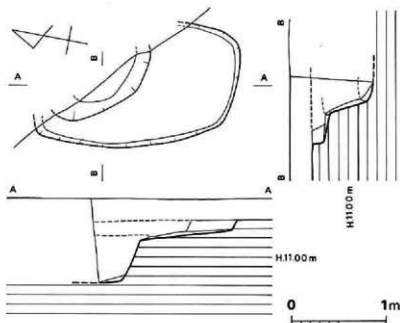


第7図 3号掘立柱建築物(縮尺1/60)

2は口径94mm, 高さ12~14mm, 底径69mm。底部は糸切り離しで, 内外ともにヨコナデを施す。茶褐色を呈し, 胎土には細粒の砂を少量含み, 焼成は良好。

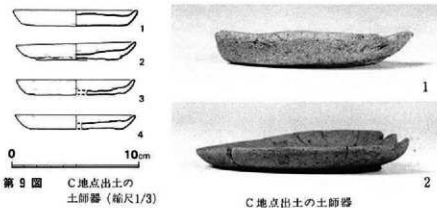
3は復原口径93mm, 高さ12.5mm, 復原底径76mm, 底部は糸切り離し痕の上に板目がみられる。内外ともにヨコナデ。淡黄色を呈し, 胎土には精選粘土を用い, 焼成は良好。

4は復原口径93mm, 高さ11mm, 復原底径74mm。底部は糸切り離しで, 内外ともにヨコナデを



施す。淡黄色を呈し、胎土には微量の砂粒を含み、焼成は良好。

第8図 1号土坑 (縮尺1/40)

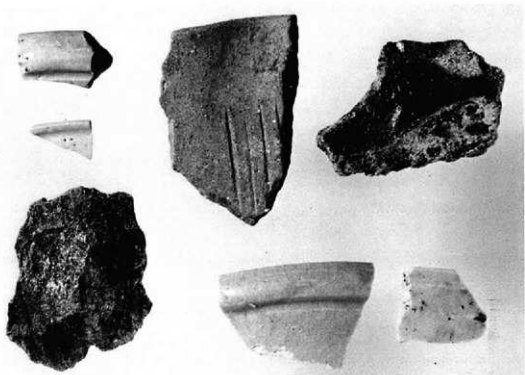


第9図 C地点出土の土師器 (縮尺1/3)

C地点出土の土師器

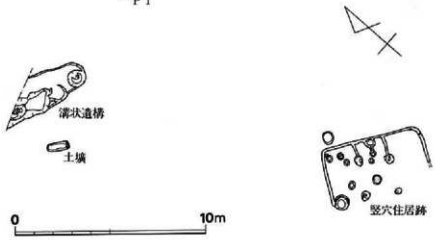
3) D地点の調査

D地点は丘陵上の緩い西斜面に当る。丘陵は後世の田畑の耕作により著しい削平を受けていたことから遺構は殆んど遺存しておらず、僅かに竪穴住居跡1軒、土壇1基、溝状遺構1条の他、柱穴1個を検出したに過ぎない。



C・D地点出土遺物 左C地点出土 右上D地点溝 右下D地点表層

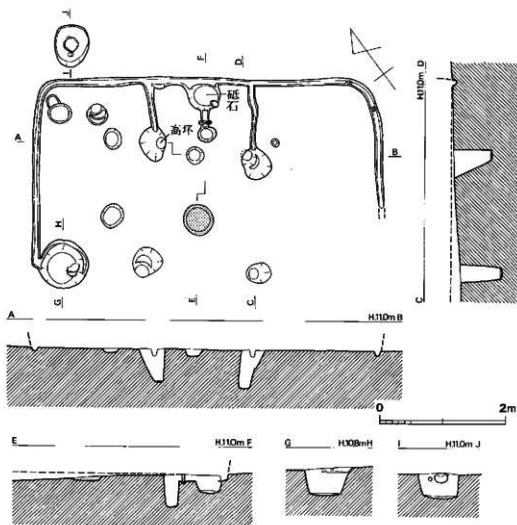
⊙P1



第10図 D地点遺構配置図(縮尺1/200)

竪穴住居跡(第11図)

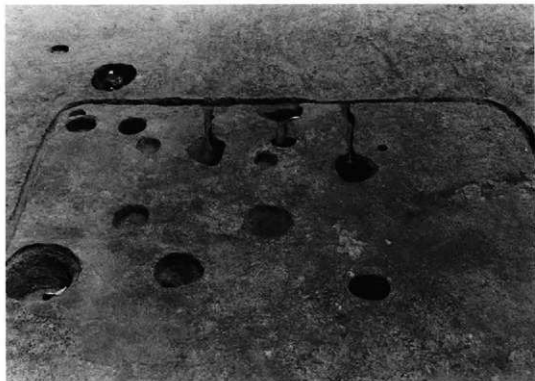
調査区の南西側で検出した竪穴住居であるが、削平を受け壁は無論のこと本来の床面も殆んど残存していない。平面形状は不明瞭であるが、北東壁側の2本の主柱と周溝までの距離を対



第 11 図 D 地点聚穴住居跡実測図 (縮尺1/60)

峙する壁に遠慮すると長方形に近い形状を示す。規模は北東壁側が計測可能で5.35mを測るが支柱から周溝の距離間を測り対応する壁を復原すると短辺は4.25mの数値が得られる。支柱は4本であるが、北側の1本が他の3本に比べてやや東側にずれている。4本の柱間は長辺側が1.35・1.75m、短辺側が2.10・1.85mである。なお、北側の支柱穴から高環の脚部片が出上している。

北東壁沿いには50cm×40cm、深さ30cmの円形の屋内上環を備えている。底面近くから砂岩製の砾石片が出上し、肩口からは石魂を検出した。屋内土環は壁沿いに廻る周溝と直結し、さらに土環から住居の中央方向に短い溝を掘り、深さ50cmの柱穴と繋がる。その間には溝と直交する細い掘り込みを設け水流を止める措置かと推測される。板状のものを使用したであろう。



竖穴住居跡全景



屋内土壁



住居跡外圍の土塹

周溝は現存で三辺に認められるが、支柱穴から周溝に向って2本の細い溝が直結しており間仕切りとも考えられるが、周溝が北西壁際にある径25cmの円形土塹に繋がっており、土塹の底には泥炭に似た粘土が堆積していたことと周溝が円形土塹に向って底面レベルを下げていることから、湧水が周溝を流れ円形土塹に溜る構造となっていたと考えられ、土塹は住居の隅に設けた多目的な水溜め遺構と推測できる。中からは壺片が出土した。4本柱の対角線上には円形の炬を設けており、壁面が著しく焼け赤変していた。

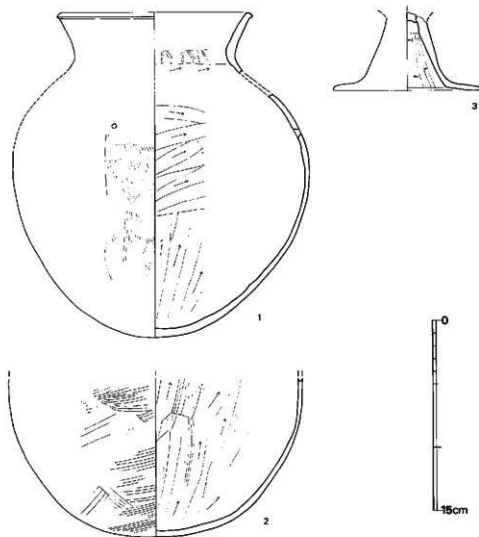
さらに、北側壁の外側には長径65cm、短径55cm、深さ40cmの不整形円形に近い形状の土塹を掘っており、底面から20cm浮いた状態で壺形土器と小型丸底、ミニチュア土器が出土している。土塹の出土土器は竪穴住居のそれと同一時期であり、しかも壁に隣接し過ぎていることから住居の上部構造を考慮すれば造り出し状の覆いを作り住居の内部に設置していたと考えられる。

出土遺物は壺・高坏・小型丸底・ミニチュア土器の他、砥石が1点ある。出土土器から住居の時期は5世紀初頭に近い頃に比定できよう。

出土遺物

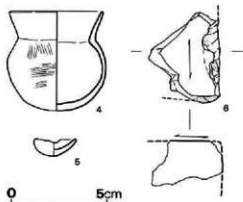
土 器 (第12・13図)

壺は1・2がある。1は布留式の広口壺の系譜を引く壺で、布留式のそれと比較して口縁は



第 12 図 野穴住居跡出土土器実測図 (1/3)

短かく口径は広い。北壁外側の土壌から出土した。口唇部は外側に肥厚させ球形に近い胴部有す。調整は口縁部が横ナデ、体部は外面が荒いハケをナデ消し、内面は丁寧なヘラ削りを施し、器壁を薄く仕上げている。頸部内面には指圧痕が残る。胎上は砂粒を多く含む金雲母が若干混在する。焼成は頗る堅固で明茶褐色を呈する。内外面とも二次加熱を受け、外面には煤が付着する。さらに、胴上半部には小さな孔を焼成後に穿っていることから、最終的には家内祭祀に使用した土器の可能性が高い。2は安定感のある底部片で、調整は1と同様であるが2の方がハケ・ヘラ削りとも粗い。器壁は1と同様薄い。胎上焼成・色調とも1に酷似し、外面に



第13図 竪穴住居跡出土土器・石器実測図 (縮尺1/2)

は煤が著しく付着する。水溜土壌内から出土した。

3は主柱穴内から出土した高坏脚部片で、柱状部は短かく裾部は鋭く開く。調整は外面がナデ、内面は横方向のへら削りで仕上げる。胎土には砂粒やや多く、焼成は頗る堅固である。明茶褐色を呈する。

4は小型丸底のミニチュア土器で1の壺と一緒に出土した。調整はナデを基調とするが、外面には僅かにハケが残る。つくりの丁寧な土器で明茶褐色を呈する。口径4.9cm、器高5.2cmを測る。

5はミニチュア土器で非常に簡素なつくりである。胎土・焼成・色調とも4に酷似する。



1



4



3



6

竪穴住居跡出土遺物

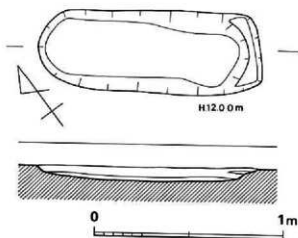
石器(第13図)

砂岩製の中砥石片である。現存する砥ぎ面は1面のみで、右側と下端の一部に自然面を残す。屋内土壌の底面近くから出土した。

土 塚

溝状遺構の南西側で検出した楕円形に近い形状をした土塚である。西南側の小口部はテラス状遺構を設け二段掘りである。遺存状態は悪く、規模は長軸1.18m、短軸45cm前後、深さ8cmを測る。主軸方位はN53°Wを示す。

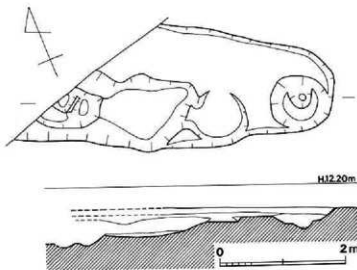
出土遺物は白磁の甕、土師器、瓦器塚の極細片が僅かにある。出土土器から土塚の時期は平安時代であろう。



第 14 図 D地区土塚実測図 (縮尺1/20)



D 地点土塚 (東南より)



第15図 D地点溝状遺構(縮尺1/60)

出土遺物は青・白磁碗、土師器環・片口土器、瓦器碗、石鍋等の小破片の他、刀子とおぼしき小鉄片がある。出土土器から溝の時期は平安時代後半に近い時期であろう。

溝状遺構

調査区の北西側で検出した溝で一部を確認したに過ぎない。溝は調査区内で完結し、大半が調査区外であるため全容は不明である。検出した全長は5.0m、幅は広い所で2.0mを測る。溝の底面はかなり複雑な様相を呈し、テラス状とピット状の遺構を確認した。溝の用途は明らかでない。



D地点溝状遺構(東南側から)

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第12集

東・太田遺跡

昭和 60 年 3 月 31 日

発行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園 7 番 7 号

赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門 1 丁目 8 番 34 号